西谷田横穴墓群Ｂ群

発掘調査報告書

２００４

掛川市教育委員会

例　言

1．本書は、平成14年８月１日から平成14年９月13日まで実施した、静岡県掛川市上西郷778－２に所在する西谷田横穴墓群Ｂ群の発掘調査報告書である。
2．発掘調査は、個人が行う畑地造成に伴う緊急発掘調査で、国及び県の補助金を得て掛川市教育委員会が実施した。調査面積は、240㎡である。
3．発掘調査に際し、土地所有者の中山貢氏には、遺跡に対する保護・保存についての御理解と御協力をいただいた。
4．発掘調査は、掛川市教育委員会 主任 前田庄一が担当した。
5．発掘調査ならびに整理作業では、下記の方々の参加を得た。
山崎辰雄　青島信二　松浦弘司　井筒いつよ　西田泰子　松浦せい子　伊藤和子　鈴木静江
高橋直美　山下広美
6．本書の執筆は、木村弘之（磐田市教育委員会から出向中）と大熊茂広が分担し、編集を木村が行った。
7．発掘調査業務は、掛川市教育委員会教育文化課が所管した。
8．調査によって得た資料は、すべて掛川市教育委員会が保管している。

凡　例

1．挿図における方位は、真北を示す。
2．遺物番号は、挿図と写真図版とで共通する。なお、写真図版のみの遺物番号については、遺物の左から右への連番とした。
3．使用測地系は、世界測地系（測地成果2000）である。

目　次

Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　調査の方法と経過……1
Ⅲ　地理的・歴史的環境……1
Ⅳ　発掘調査の成果……4
Ⅴ　まとめ……15

挿図目次

第１図　遺跡の位置と周辺遺跡分布図……2
第２図　調査地位置図……3
第３図　調査区全体図……4
第４図　１号墓実測図……5
第５図　１号墓礫床検出状況図……6
第６図　２号墓実測図……8
第７図　３号墓実測図……9
第８図　４号墓実測図……10
第９図　５号墓実測図……11
第10図　ＳＸ－01実測図……12
第11図　出土土器実測図……14
第12図　１号墓出土遺物実測図……15

挿表目次

第１表　主要出土陶磁器計測表……16

写真図版目次

図版Ⅰ　１～５号墓　全景　（西から）
　　１～５号墓　遠景　（東から）
　　１号墓羨門部　（南から）
図版Ⅱ　１号墓礫床検出状況　（南から）
　　１号墓羨道部　（北から）
　　２号墓奥壁　（南から）
図版Ⅲ　３号墓奥壁　（南から）
　　４号墓玄室部　（南から）
　　４号墓開口部　（南から）
図版Ⅳ　４号墓玄室前壁　（北から）
　　５号墓羨道部　（北から）
　　５号墓玄室前壁　（南から）
図版Ⅴ　５号墓玄室部　（南から）
　　ＳＸ01遠景　（東から）
　　ＳＸ01　（南から）
図版Ⅵ　出土土器１～19
　　出土土器20～49
図版Ⅶ　出土土器50～66
　　出土土器67～114
　　出土土器115～127
図版Ⅷ　出土土器128～144
　　出土土器145～157
　　出土土器158～163

Ⅰ　調査に至る経緯

西谷田横穴墓群は、周知の遺跡であり、Ａ～Ｆ群の支群に分けられている。今回調査を行ったＢ群は、調査前すでに４基が開口していた。今回の調査の契機は、平成14年５月29日、茶園を開墾するため、所有する土地を重機で掘削をしていたところ、同地の一部が陥没したことから横穴墓の存在が知られた事による。この新たに発見された横穴墓は、保存状態が良いことが考えられたが、開墾することにより、今後、横穴墓が消滅するおそれがあった。また、横穴墓は通常数基で群をなすことから、隣接して横穴墓が存在する可能性があった。そこで、横穴墓の基数を把握するために、確認調査を実施し、さらに国・県の補助金を得て、本調査を実施することとなった。

Ⅱ　調査の方法と経過

平成14年６月20日に確認調査を実施した結果、造成中に発見された横穴墓１基のほかに、墓前域、不明遺構１基の存在を確認した。

同年８月１日から本調査を実施することとなり、横穴墓５基、不明遺構１基の調査に入った。東西に延びる調査区を２分割し、西半部の調査から開始することとした。重機による掘削を行い、次に、横穴墓の調査に入った。横穴墓内の覆土、墓前域の掘削を人力により行い、遺物・遺構の有無を確認した。

横穴墓の調査終了後、埋め戻しを行い、東半部を掘削し、不明遺構の調査を行った。

横穴墓の実測は、奥壁中央と玄門中央とを結ぶラインを主軸として設定し行った。現地での図面作成は、横穴墓を10分の１、不明遺構は20分の１縮尺で行った。写真撮影には、ブローニーサイズ（６×７）原画白黒、35㎜サイズカラーネガ及び同カラーリバーサルを用いた。

調査経過は、以下のとおりである。

平成14年８月１・２日　準備・重機掘削。５～16日　掘削、終了後順次実測。20日　写真撮影。
27～28日　東半部掘削，不明遺構（ＳＸ０１）を人力にて掘削。30日　不明遺構完掘。
９月２日　実測、レベリング完了。写真撮影。片付け。12・13日　埋め戻し

Ⅲ　地理的・歴史的環境

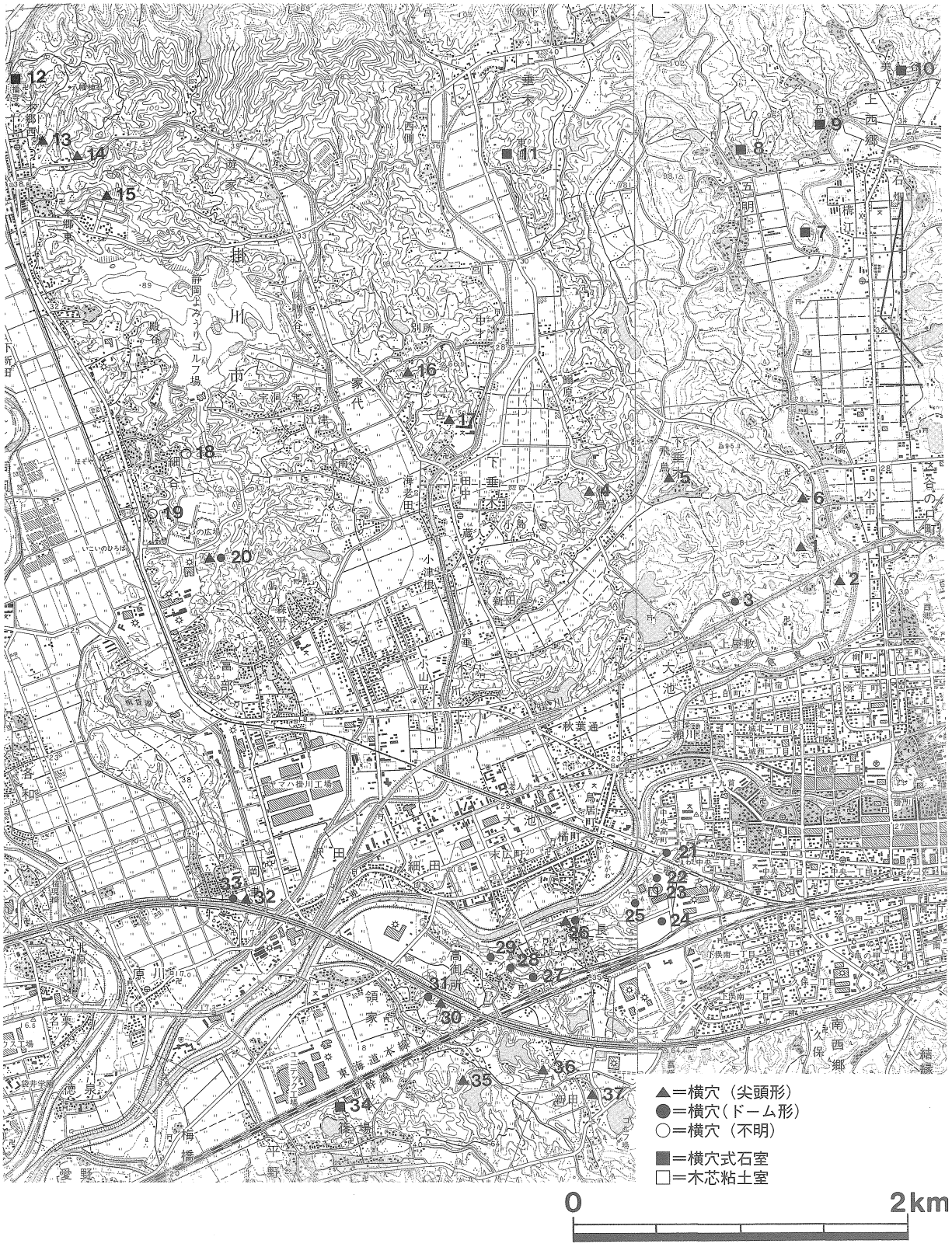
地　理　掛川市は、静岡県西部地方（大井川以西）にあり、東経138度線上に位置する。南に小笠山、東に牧之原台地に続く丘陵、北には赤石山脈から連なる丘陵に取り囲まれ、その間を原野谷川、逆川をはじめとする中小河川が流路を形成している。これら河川が形成した沖積平野の端には、開析した小さな谷が無数に入り込んでいる。

今回調査対象となった西谷田横穴墓群は、市内中央部を北から南へ南流する倉真川右岸に形成された開析谷の一つに造墓された横穴墓群である。横穴墓群は、全部で６つの群で構成され、今回対象となったＢ群は南向き斜面に開口している。

歴　史　掛川市域の後期古墳には、少数の横穴墓式石室墳と多数の横穴墓がみられる。

横穴墓式石室を主体部とする後期古墳は、平成15年度現在で、確認する古墳に小高古墳、長福寺古墳群（３基？）、萩ノ段古墳、美人ヶ谷古墳群（６基）、石ヶ谷古墳群（４基）、平塚古墳、天段古墳群（２基）、居村古墳群（３基）、丈山古墳群（７基）がある。築造開始時期は、６世紀後半～７世紀中葉が当てられる。一方、横穴墓は市内で994基を数えることができる。これらは、断面形により大きく３分類され、アーチ形、尖頭アーチ形、ドーム形に分けることが可能である。分布はアーチ形、尖頭アーチ形が市内全域に、ドーム形は市内南部に限られることがわかっている。

次に、今回調査した西谷田横穴墓群Ｂ群を取り巻く遺跡の様子をみてみよう。



1.西谷田横穴墓群　2.原横穴墓群　3.三十八坪横穴墓群　4.鰯原横穴墓群　5.岩谷横穴墓群　6.梅ヶ谷横穴墓群
7.平塚古墳　8.小高古墳　9.石ヶ谷古墳　10.美人ヶ谷古墳　11.天段古墳群　12.長福寺古墳群　13.宮坂横穴群
14.古戦横穴群　15.楠ヶ谷横穴墓群　16.別所横穴墓群　17.峯横穴墓群　18.堂前横穴墓群　19.甚佐ヶ谷横穴墓群
20.土橋横穴墓群　21.山麓山横穴墓　22.宇洞ヶ谷横穴墓　23.堀ノ内13号墳　24.堀ノ内横穴墓群
25.堀ノ内横穴墓群（Ｄ１号墳）　26.山脇横穴墓群　27.前山横穴墓群　28.向山横穴墓群　29.本村横穴墓群Ｅ群
30.本村横穴墓群Ｂ群　31.本村横穴墓群Ａ群　32.岡津横穴墓群Ｂ群　33.岡津横穴墓群Ａ群　34.上山古墳群
35.大谷代古墳群　36.南坪横穴墓群　37.新田横穴墓群

第１図　遺跡の位置と周辺遺跡分布図

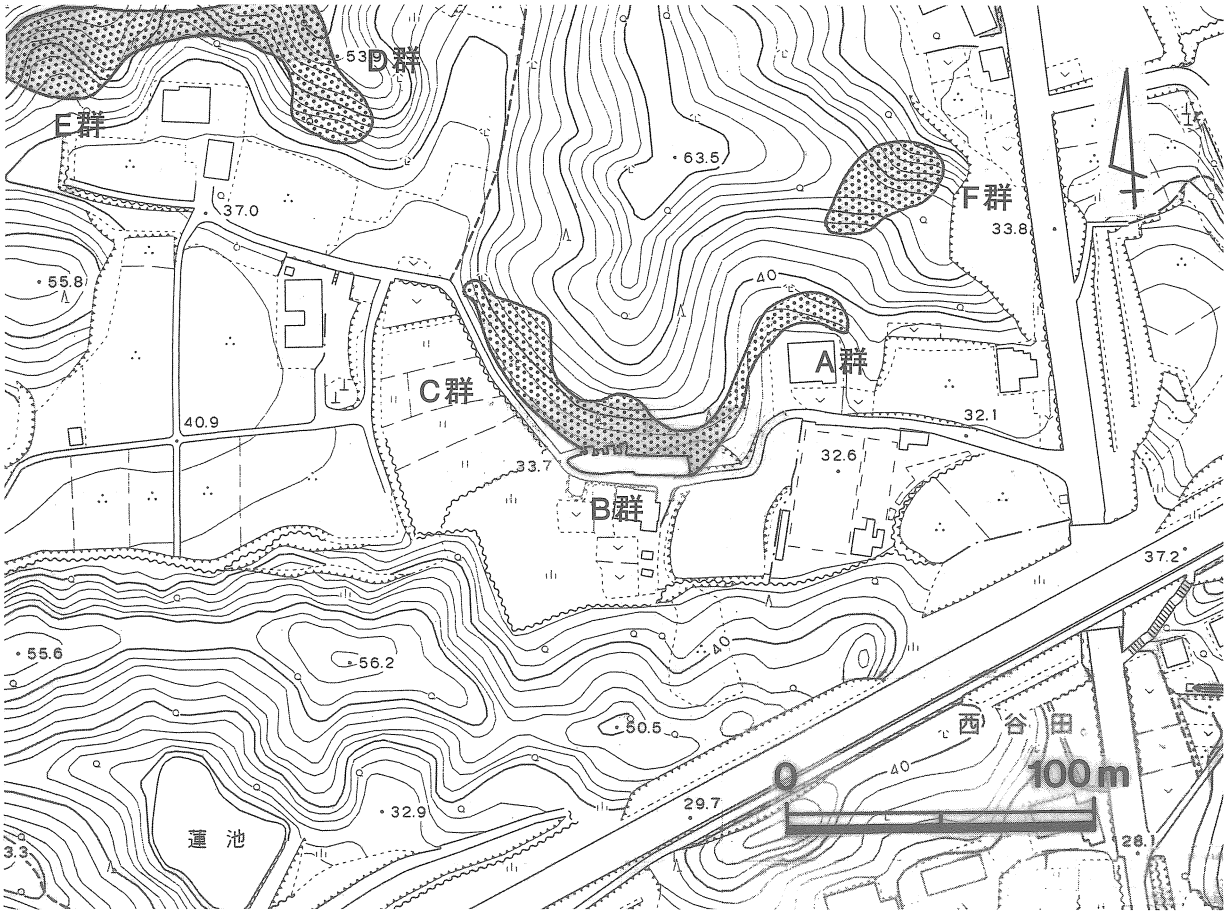
本横穴墓群は、倉真川中流域に位置し、付近に三十八坪横穴墓群、梅ヶ谷横穴墓群が存在する。三十八坪横穴墓群Ａ群は４基で構成され、ドーム形横穴墓の北限とされている。

倉真川を下った逆川との合流点南側の丘陵には、環頭大刀・変形神獣鏡・馬具など豊富な副葬品をもった宇洞ヶ谷横穴墓、山麓山横穴墓が存在する。特に宇洞ヶ谷横穴墓からの出土品は、同年代の古墳被葬者のそれと何ら遜色のない、むしろそれ以上の豪華な副葬品がみられる。その状況から、６世紀中～後半代の当地方の有力首長墓である。また、本横穴墓群が位置する丘陵を隔てた西側の垂木川中流域の飛鳥地区には、鰯原横穴墓群、岩谷横穴墓群等の飛鳥横穴墓群が分布する。この他、家代地区には十五ヶ谷横穴墓群、別所横穴墓群、峯横穴墓群が分布する。前者は群の密集度が高く、後者は小規模の横穴墓群である。なお、後者が位置する丘陵北側600ｍには後期古墳、天段古墳群が存在する。横穴墓と古墳が近在することで、墓制を追究する契機となるものである。

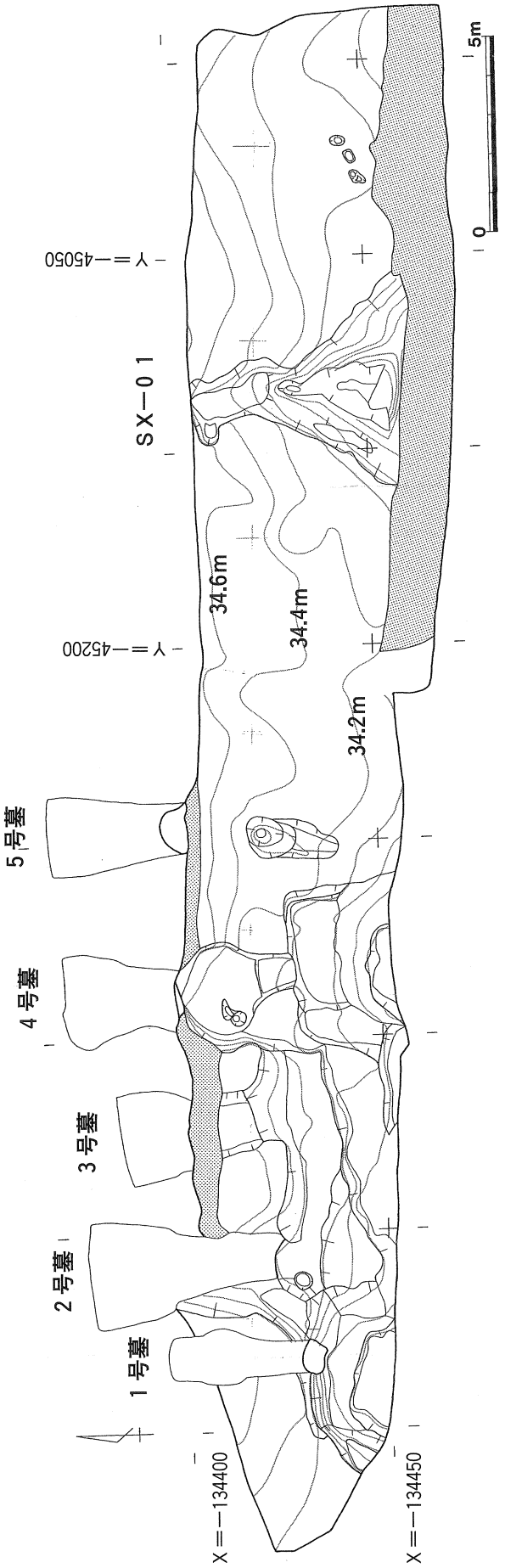
このように、限定した区域をみても本横穴墓周辺には、立地、分布、副葬品など各々特徴をもった造墓がなされ、まとまった墓群が形成されていることがわかる。

立　地　本横穴墓群は、Ａ～Ｆの支群に分かれ、Ａ～Ｃ・Ｆは舌状に伸びた丘陵の先端部に、Ｄ・Ｅは一つ西側に隔てた谷部に造墓されている。地形的には小河川により形成された谷の奥部に造墓されたものとみられる。

今回調査した横穴墓群はこのうち、Ｂ群で丘陵先端部にあたる支群である。立地的には南に面した好位置を占地している。詳細については、以下にゆずることとする。



第２図　調査地位置図



第３図　調査区全体図

Ⅳ　発掘調査の成果（第３図）

今回の調査では、５基の横穴墓と不明遺構（ＳＸ０１）１基を検出、確認した。横穴墓の遺存状況は、２、３号墓の天井壁が崩落・欠失していたものの、その他については、形状を知ることができた。また、１号墓からは19世紀代の陶磁器や獣骨等が見つかっているが、出土状況から廃棄されたものと考えられる。横穴墓、は出土した遺物から７世紀後半に造墓されたものと考えられるが、少量の遺物と残存率であるため、個々の横穴の年代観及び前後については不明である。横穴の形態は、断面アーチ形、尖頭アーチ形を呈する。

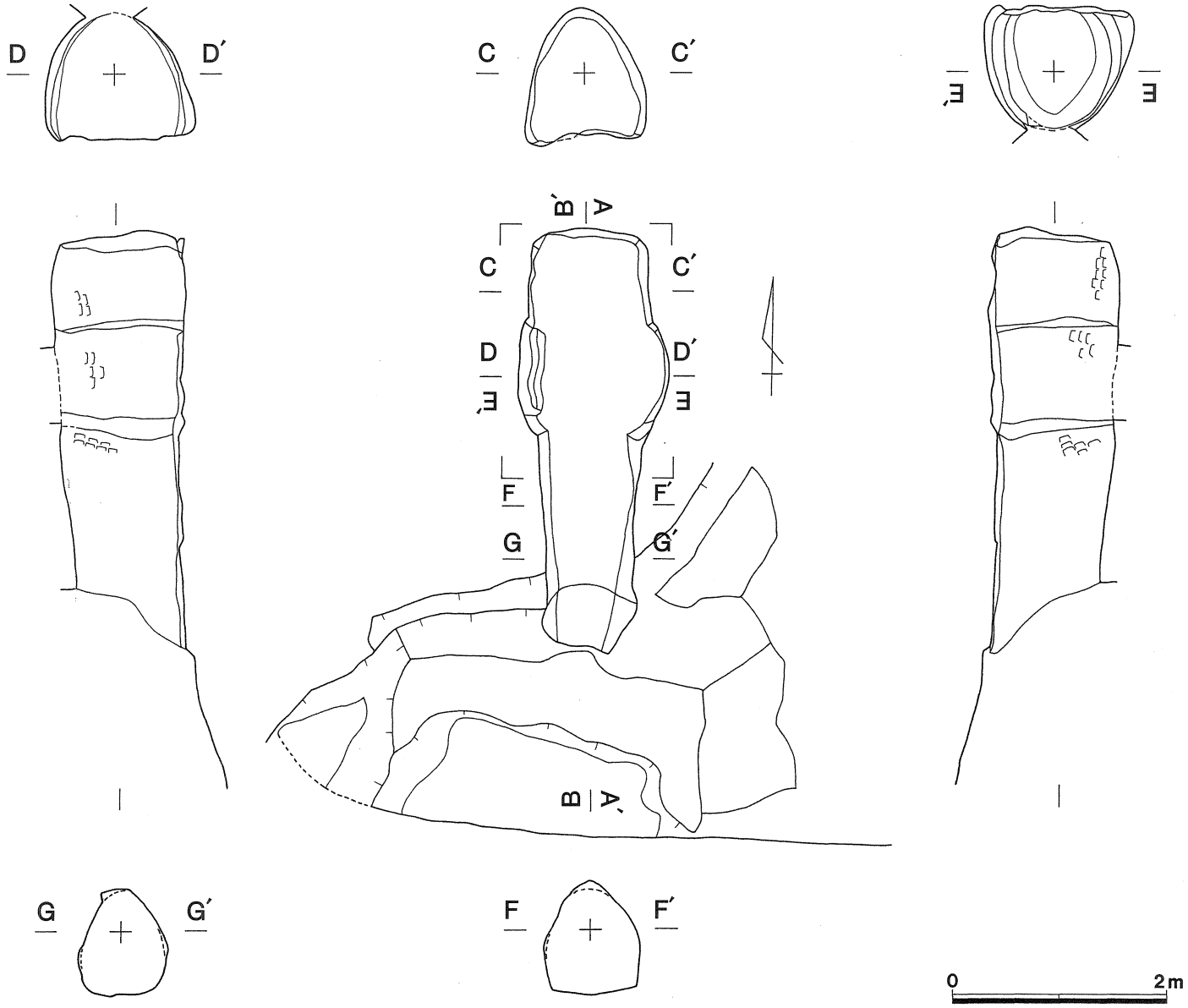
以下に、今回確認した遺構・遺物について記述する。なお、１号墓から出土した陶磁器類については、計測可能なもののみ報告することとした。

1.　遺　　構（第４～10図）

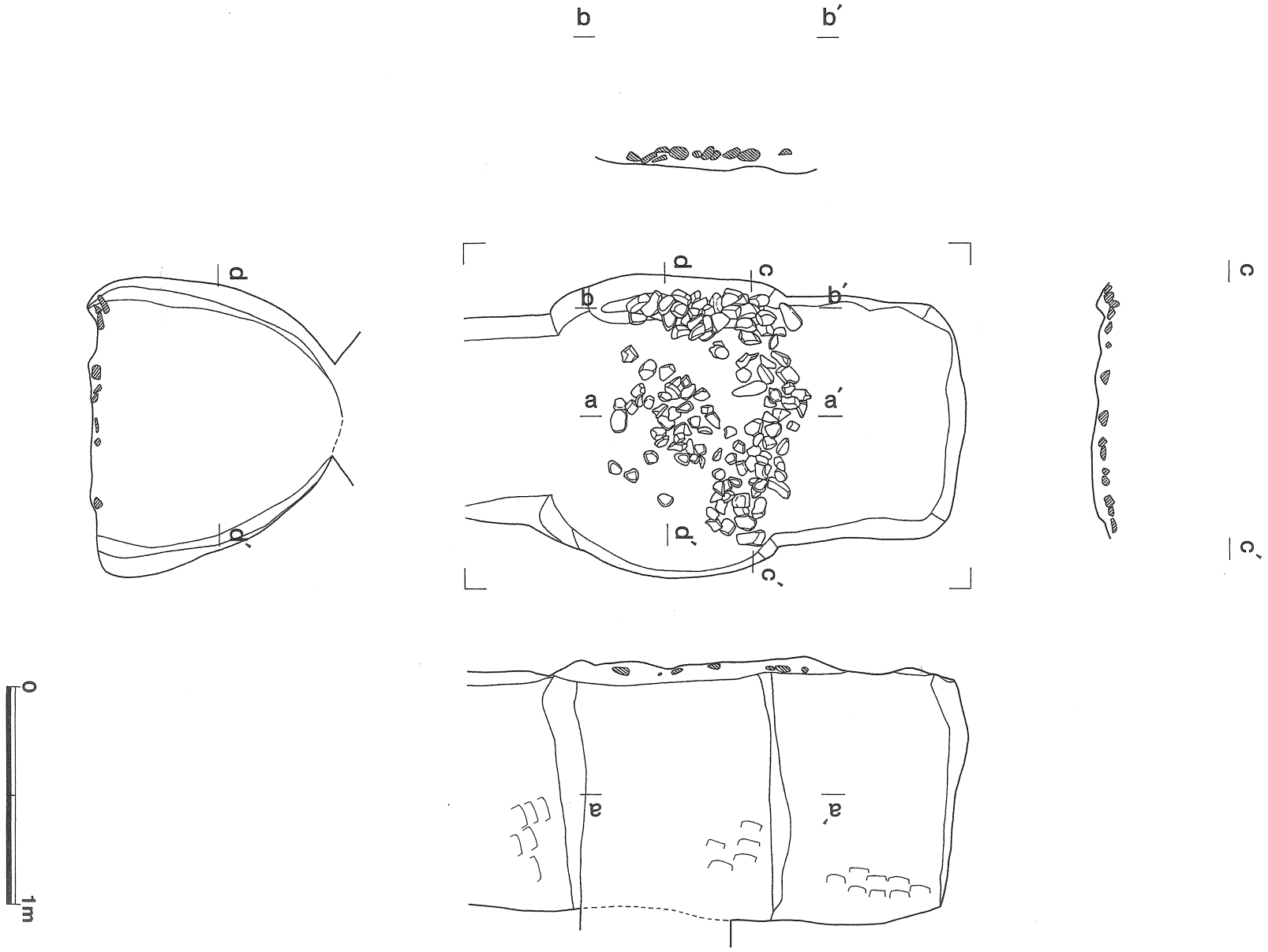
１号墓（第４・５図）　１号墓は、調査区の西端に位置し、２～５号墓の１群より一段低い場所に造られている。標高は、羨門部付近で33.4mを測る。主軸は、ほぼ真北を示す。遺存状況は良く、羨門部は幅0.8mほど開口していた。玄室、羨道、墓前域に分かれる。

玄室は、全長1.95m、奥壁寄の幅0.95m、高さ1.2mで、基本的には平面形は隅丸長方形を呈しているが、玄門北側で幅1.28m、長さ1.05mに亘り膨らむ複室構造の様相を呈す。膨らむ部分を前室、この奥を後室と仮称する。前室には５～10cm大の礫床があり（第５図）、西側礫床下部には幅20cm、深さ10cmほどの溝が検出された。礫床の検出状況から、19世紀の撹乱により礫が失われている部分が多いものと判断される。前室断面形は、尖頭アーチ形を呈している。

羨道部は全長2.0m、玄門部付近で幅0.75m、羨門付近にて幅0.5mを測る。断面は中央付近で、崩落により現状で砲弾形を呈し、高さ1.0mを測る。羨道、前室、後室は平面と側壁に稜がつき明瞭に区別できる。



第４図　１号墓実測図　A.S.L＝34.100m



第５図　１号墓礫床検出状況図　A.S.L＝34.100m

掘り方は、玄門付近の平面形で膨らみをもつ箇所において一段下がっているものの、全体的には、ほぼ平坦な形を示している。玄室から羨道に至る天井部は、玄門部分が破壊して断定はできないが、なだらかに傾斜していたものと思われる。両壁面には、造墓時の工具痕がみられる。幅10cmほどである。

墓前域は、ゆるやかに南に傾斜している。ここからは、遺物の出土はなかった。

掘り方は、前室部分が一段低くなり、全体に凹凸があるが、羨門から奥壁までほぼ水平である。

遺物は、須恵器片と土師器片が出土している。土壌を洗浄したが鉄製品、玉類の出土はなかった。

2号墓（第6図） 2号墓は、1号墓の東側に位置し、羨道部辺りで標高34.2mを測る。主軸は、真北に対して西に8度振れる。遺存状況は悪く、奥壁付近でかろうじて断面形態が尖頭アーチ形と推定されるのみである。

玄室は、全長2.15m、最大幅2.72m、奥壁部で高さ2.48mと高く、平面形は両袖形を呈している。玄室中央部で検出された径55cm、深さ35cmの土坑には近世の甕が埋納されていた。この土坑に接続するように幅12cm、深さ10cmの溝が東側でT字形、西側でL字形に検出された。この溝は、近世甕埋納土坑と一体である可能性がある。

羨道部は、全長2.55m、玄門部付近で幅1.67m、羨門付近にて幅1.15mを測る。高さは、不明である。

掘り方は、全体的にほぼ平坦な形を示し、羨門部分に向かってゆるやかに傾斜する。

遺物は、須恵器片と土師器片が出土している。

3号墓（第7図） 3号墓は、2号墓の西側にあり、5基の中央に位置する。推定羨道部付近で標高34.5mを測る。主軸は、真北に対して10度西に振れる。玄室、羨道、墓前域の遺存状況は悪く、奥壁付近で断面形を推測できるのみである。玄室と羨道に分かれるが、玄室と羨道の接続部は、撹乱されている。

玄室は、推定全長2.2m前後、奥壁寄りで最大幅2.36m、高さ2.05mと高く、横長長方形を呈しているが、袖が存在したかは不明である。東側で幅15cm、深さ10cmほどの2条の溝が検出された。この溝と横穴の関係は、不明である。玄室断面形は、尖頭アーチ形を呈している。

羨道部は推定全長1.2m前後、羨門付近にて1.05mを測る。断面形は、不明である。

掘り方は、全体的にほぼ平坦な形を示している。羨道の掘り方と玄室の掘り方に約15cmの差があり、羨道は、玄室より一段低く造られていた可能性がある。

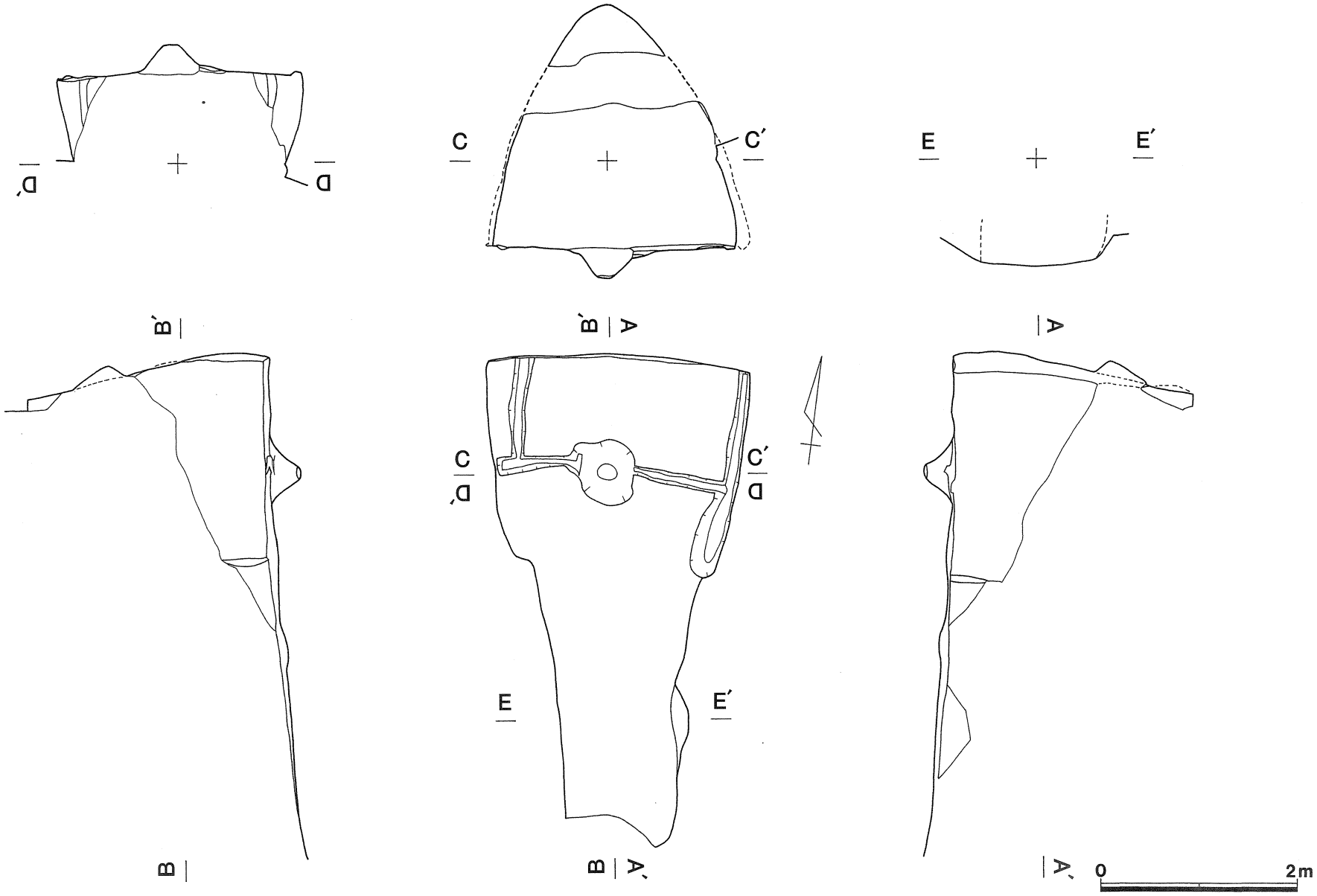
遺物は、須恵器片と土師器片が出土している。

4号墓（第8図） 4号墓は、3号墓の東側に位置し、開口部付近で標高34.5mを測る。主軸は、真北に対して10度西に振れる。遺存状況は良く、開口部は幅1.6mほど開口していた。玄室と羨道に分かれる。

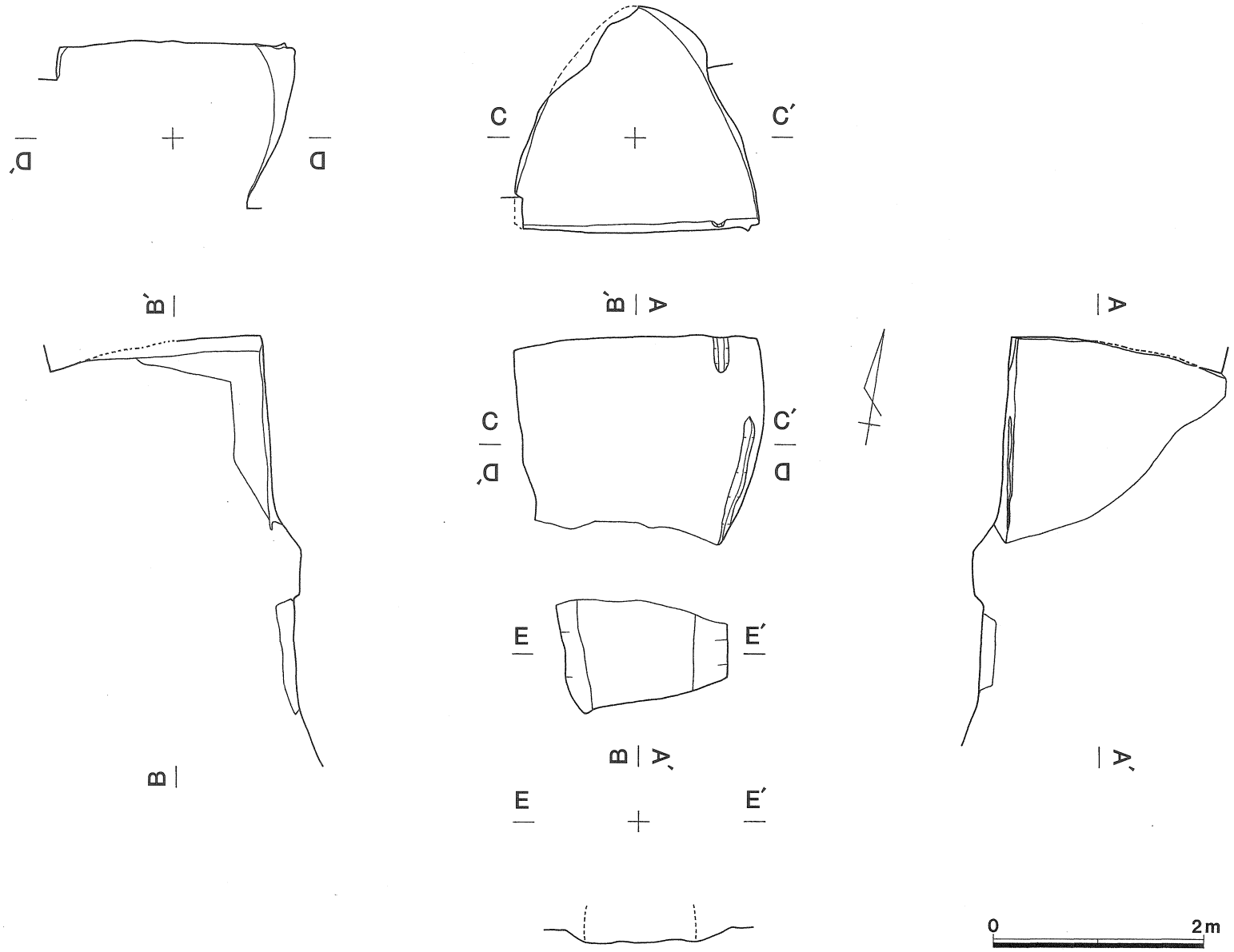
玄室は、全長2.92m、奥壁寄で幅2.3m、高さ1.97mを測り、基本的には平面形、は台形を呈している。断面形は、アーチ形を呈している。

羨道部は、全長1.65m、玄門部付近で幅1.4m、羨門付近にて幅1.1mを測る。断面は、中央付近で、長円形を呈している。玄室、羨道の右壁は、後世に拡張され、右袖は不明瞭であるが、両袖と考えられる。玄室の天井は、奥壁から玄門にかけて湾曲しながら傾斜し、水平な羨道の天井へと移行する。羨道の掘り方は、玄室の掘り方より約10cm低く造られている。玄室全体が棺座状を呈している。

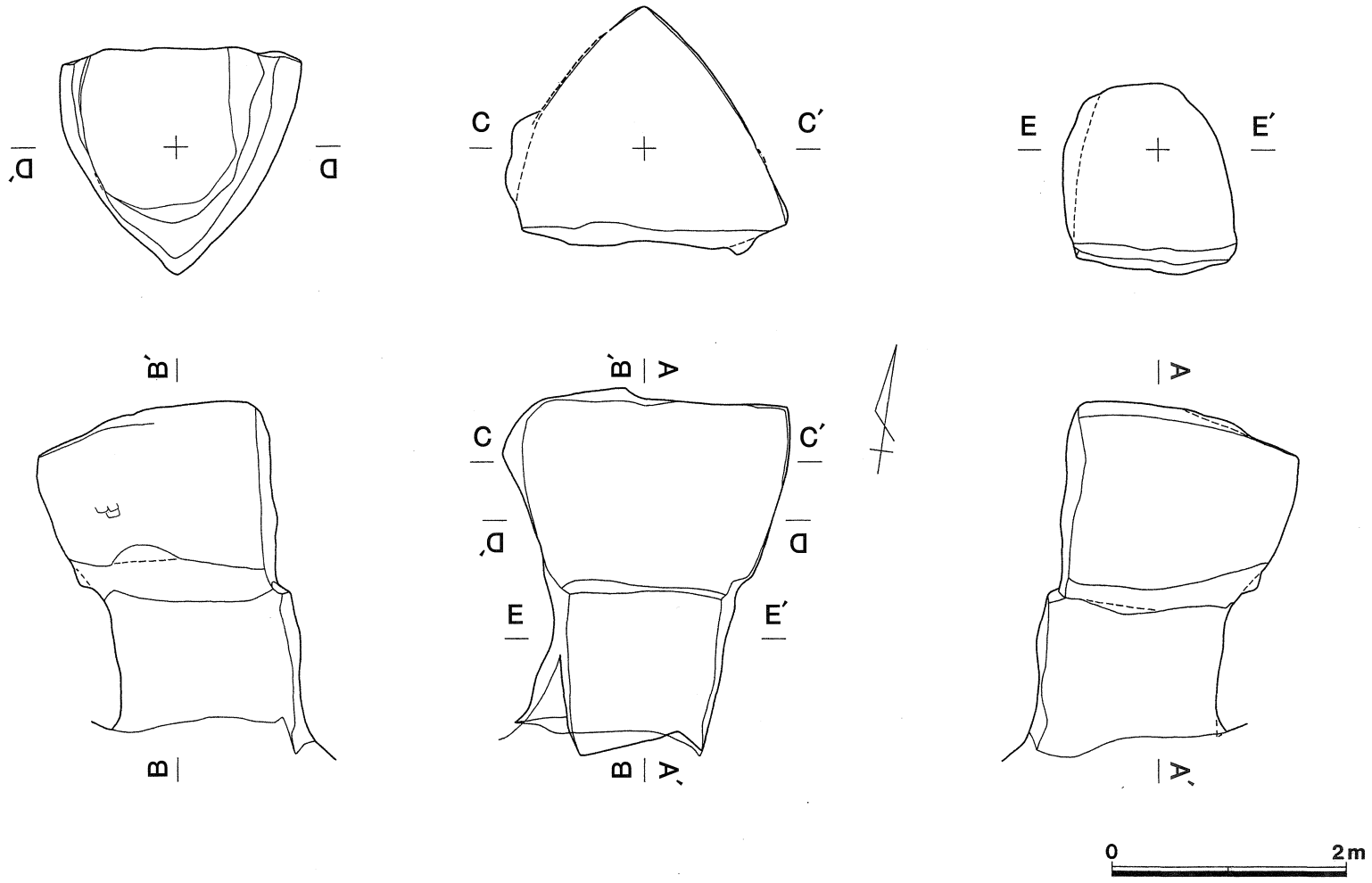
床面は、玄門付近で一段下がり、羨道部に接続している。高低差は、約10cmである。開口部南側の耕作土下部から検出された長円形の浅い掘り込みは、墓前域である可能性がある。



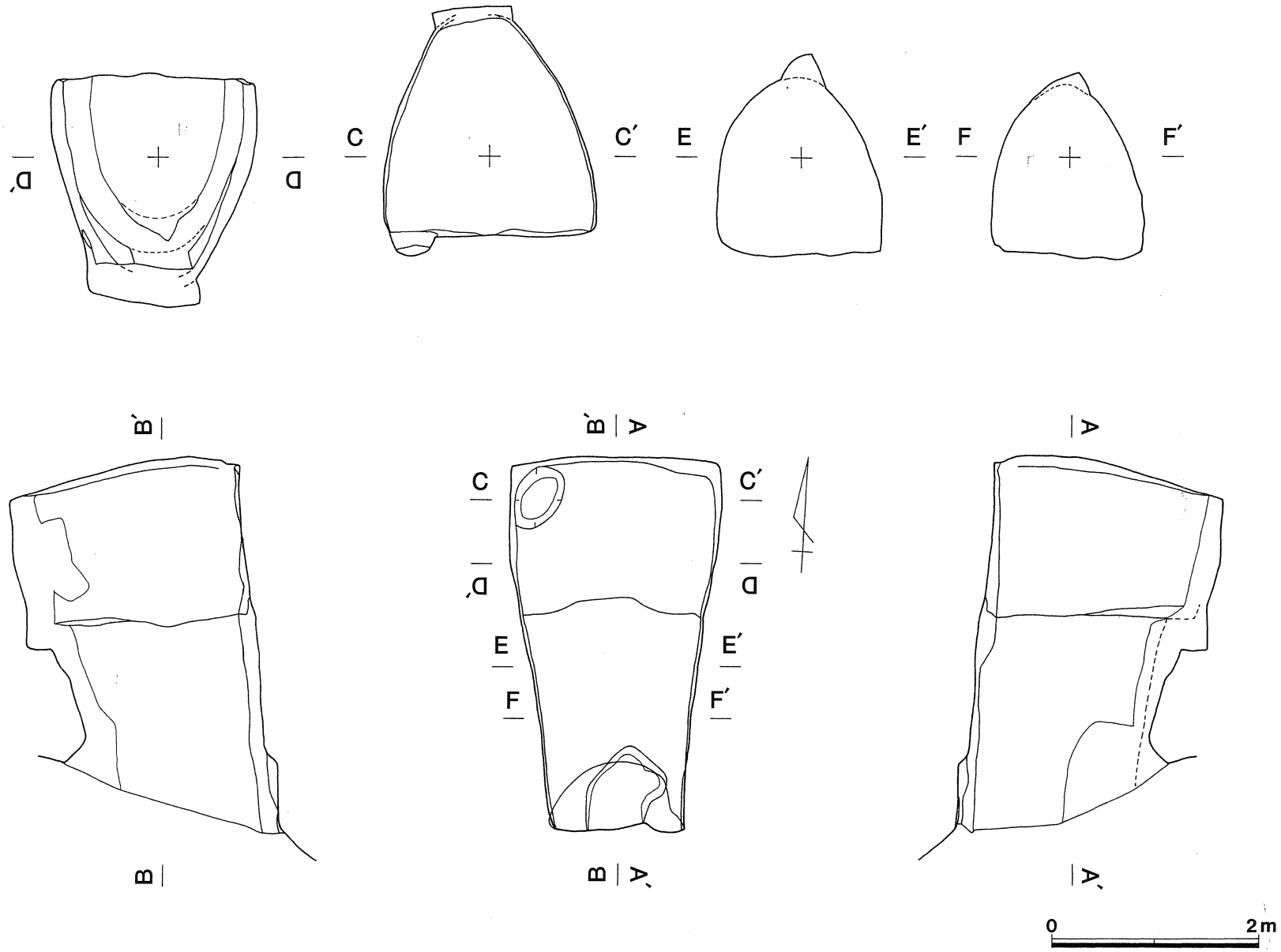
第６図　２号墓実測図　A.S.L＝35.400m



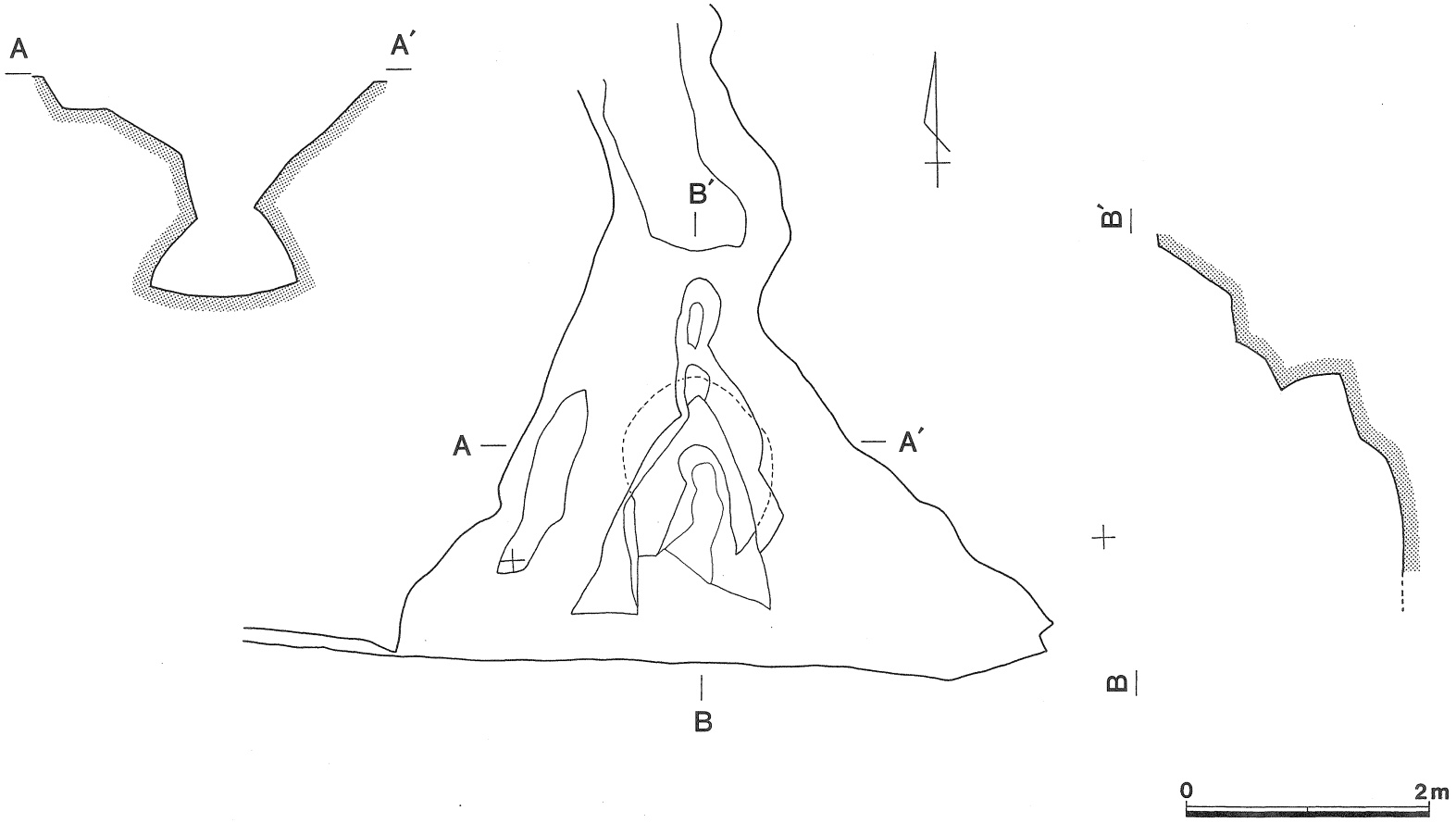
第７図　３号墓実測図　A.S.L＝35.700m



第８図　４号墓実測図　A.S.L＝35.600m



第９図　５号墓実測図　A.S.L＝36.200m



第10図　ＳＸ－０１実測図　A.S.L＝34.000m

西壁面には、造墓時の工具痕がみられる。幅10cmほどである。

遺物は、須恵器片と土師器片が出土している。

5号墓（第9図） 5号墓は、5基のうち東端に位置し、開口部とされる付近で標高35.1mを測る。主軸は、真北に対して4度西に振れる。遺存状況はやや悪く、開口部とされる付近が撹乱されていた。玄室と羨道の境は、平面で壁の角度の変化となって表れ、天井は、玄室と羨道で段がつく。

玄室は、全長1.5m、奥壁寄で幅2.03m、高さ2.2mで、平面形は横長長方形を呈している。断面形は、天井部が欠損しているが、アーチ形を呈していたと推定する。玄室の西北隅で、径45cm、深さ22cmの土坑が検出された。後世の改変によるものであろう。

羨道部は全長2.05m、玄門部付近で幅1.6m、羨門と思われる付近で幅1.15mを測る。断面は、中央付近で、砲弾形を呈し、高さ1.65mを測る。羨門と思われる付近で、一段下がっていた。

掘り方は、羨門付近でやや下がってはいるものの、全体的には、ほぼ平坦な形を示し、開口部に剥離がみられるが、玄室からゆるやかに傾斜する。

遺物は、須恵器片と土師器片が出土している。

ＳＸ－０１（第10図） 形状的に谷部の様相を呈し、北から南に傾斜する。自然作用によるものか、人為的なものかは不明である。第10図Ｂ－Ｂ′部分の深底部で断面形状が三角フラスコ状となり、北側に抉れている。深さ1.72m、深底部幅1.2m、括れ部で47cmを測る。深底部から須恵器と土師器片が出土している。

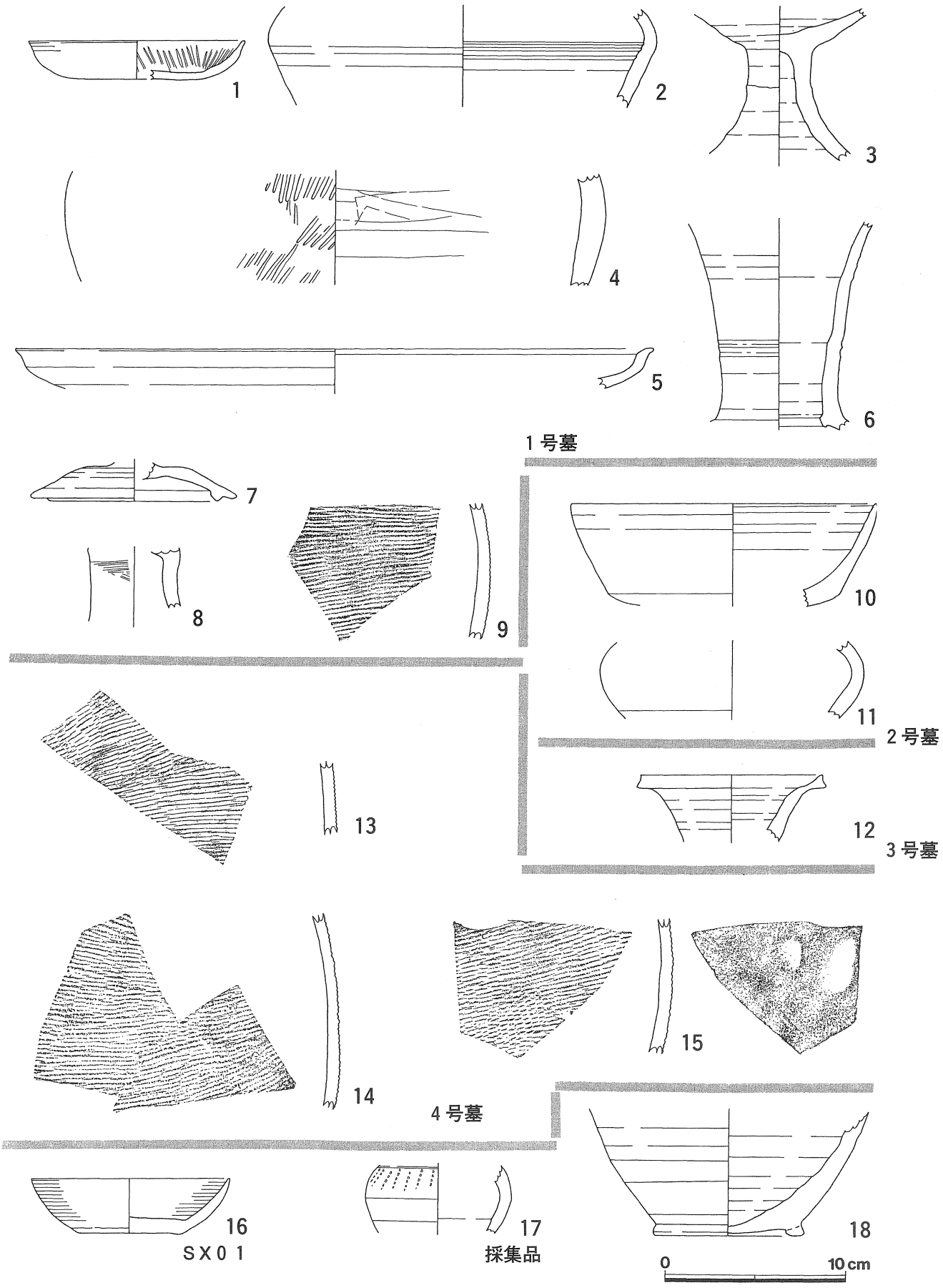
2. 遺　　物（第11・12図）

第11図１～９及び第12図19は、１号墓から出土した遺物である。

１は土師器坏である。推定径12.2cm、高さ2.2cmを測る。内面に暗文を施す。外面口縁部付近にナデを施す。色調は赤褐色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。２は、須恵器の長頸壺の胴部である。最大径21.5cmを測る。色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。３は、須恵器の高坏の脚部付近の破片である。色調は黒灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は不良である。４は、須恵器の甕胴部である。推定径29.9cmを測る。外面は叩き、内面はナデを施す。色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。色調は灰白色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。表面に叩きを施す。５は、須恵器の盤と思われる。推定径35.4cmを測る。色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。６は、須恵器の壺の頸部破片である。推定径7.1cmを測る。色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。７は、須恵器坏と思われる。推定口径9.3cm、高さ不明である。天井部外面にヘラ削り、他はナデを施す。色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。８は、須恵器の高坏の脚部である。最大径4.8cmを測る。色調は黒灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は不良である。９は、須恵器の甕胴部破片である。表面に叩きを施す。色調は灰白色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。第12図19は、砥石である。形状は幅2.9cm、現存長3.5cm、厚さ1.2～1.5cmで、長方形を呈していたと思われる。白色凝灰岩製と思われる。

第11図10・11は、２号墓から出土した遺物である。10は、土師器の碗、もしくは高坏受け部と思われる。推定口径16.8cmを測る。内外面ともにナデを施す。口縁端部をつまみあげ、やや内傾する。底部は厚みを増す。色調は暗橙色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。11は、須恵器の瓦胴（はそう）部と思われる。推定径14.4cmを測る。色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。

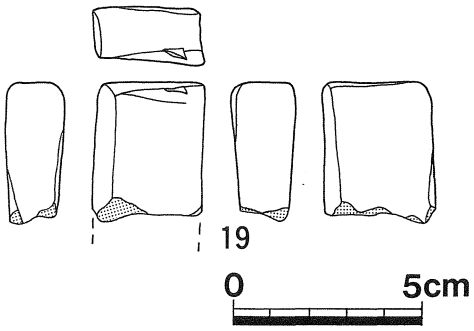
12は、３号墓より出土した須恵器の壺の口縁部破片である。推定口径10cmを測る。色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。



第11図　出土土器　実測図

第11図13～15は、４号墓から出土した甕の胴部破片である。いずれも表面に叩きを施す。15は、内面に指頭痕を残す。いずれも色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。

第11図16は、ＳＸ－０１から出土した土師器の碗である。口径10.9cm、高さ3.0cm を測る。内外面ともに細かいナデを施す。色調は暗橙色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。



第12図　１号墓出土遺物実測図

第11図17，18は、採集品である。17は瓶(はそう)の胴部、18は長頸壺の底部である。17は、肩部に櫛による連続刺突文を施し、自然釉がみられる。18は、高台部が断面方形を呈している。いずれも色調は灰色を呈し、胎土は緻密、焼成は良好である。

陶磁器類については、計測可能のみの総計で144点あり、その器形が碗類72点・蓋26点・皿類12点・灯明皿６点・土瓶６点・鉢３点・壺３点・その他16点を数える。産地は、瀬戸が９割を占め、志戸呂が１割程度である。計測することができた陶磁器類は、第１表のとおりである。

Ⅴ　ま　と　め

今回、アーチ形横穴墓２基、尖頭アーチ形横穴墓３基からなる一群を調査した。横穴墓すべてが後世の撹乱、または改変を受けて原形をとどめるものはなく、さらに遺物については、１号墓から土器片が出土したのみで、２号墓から５号墓にかけて原位置をとどめるものはなかった。

これらは、築造時の高さが同規模で、玄室の天井が高い２～５号墓、一段低い場所に築かれた１号墓に分けることが可能である。２～５号墓は、さらに分類することが可能と思われるが、原形を損なっており、これ以上の分類は不可能である。１号墓は、玄室が複室状の構造をなす。前室、後室ともに規模が小さい。ここからの出土遺物は土器片のみで、鉄製品、装飾品類の出土はない。出土状況から、当初から土器のみの副葬であった可能性がある。２号墓と４号墓は、ともに両袖形を呈する。４号墓は、玄室と羨道の境に段差をつけ、５号墓は、玄室と羨道の境を側壁の角度の変化で表現し、天井には段を設けている。５号墓の形態は、４号墓の形態を簡略化したものと捉えることが可能である。１号墓は、複室構造という特殊な形態を除けば、５号墓の形態を簡略化したものと捉えることが可能である。

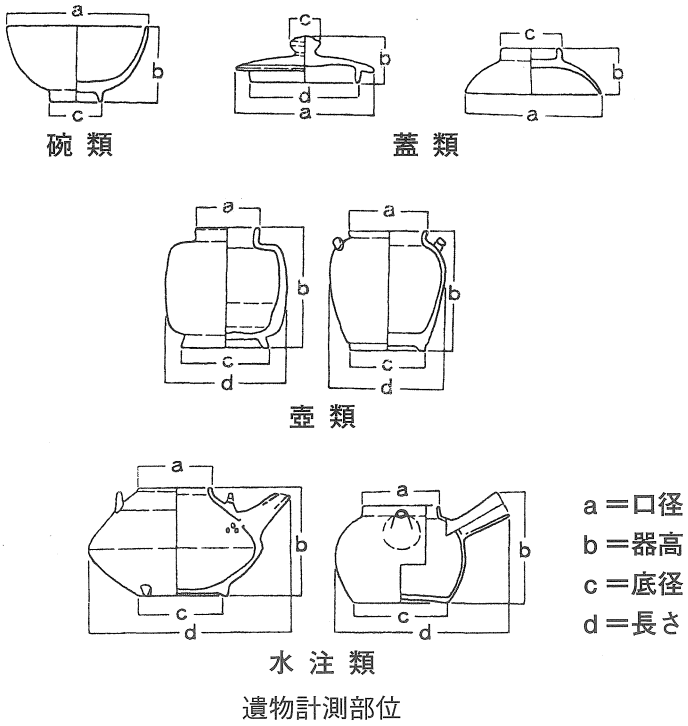
出土した土器から本横穴墓は、横穴墓の造墓が終了する７世紀後半にあたること、また、本横穴墓の構造に簡略化がみられることから本群は、アーチ形、尖頭アーチ形横穴墓の終末期の形態を示しているものといえよう。

	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備　考
20	11.9	4.6	7.1	碗
21	11.1	4.3	5.8	碗
22	10.6	4.6	6	碗
23	10.3	4.4	5.9	碗
24	9.7	4	5.8	碗
25	10.1	4.6	6	碗
26	10.8	4.5	6.3	碗
27	10	4.2	5.8	碗
28	10.6	4.2	5.9	碗
29	10.5	4.4	6	碗
30	10.3	4.3	5.9	碗
31	10.7	4.1	6.6	碗
32	10.5	4.6	6	碗
33	11	4.4	6.1	碗
34	10.4	4.1	5.8	碗
35	12.3	5.5	6.8	碗
36	11.6	4.9	6.6	碗
37	10.6	4.3	6.4	碗
38	10.4	4.6	6	碗
39	10.4	4.2	5.9	碗
40	11.6	4.9	6.1	碗
41	10.4	4.3	6.2	碗
42	9.1	4	4.8	碗
43	10.5	4.2	6	碗
44	10.5	4.1	5.8	碗
45	10.3	4	6.1	碗
46	10.4	4.4	6.3	碗
47	9.3	3.7	5.2	碗
48	10.6	4.6	6.3	碗
49	9.7	4.1	5.4	碗
50	7.3	2.8	3.4	碗
51	12.2	5	欠	碗
52	6.7	2.7	3.5	碗
53	9.4	3.9	5.4	碗
54	10.6	4.2	6	碗
55	8.8	3.3	4.5	碗
56	10.6	4	6.2	碗
57	11.4	4.4	6.1	碗
58	12.6	5.6	7.5	碗
59	9.4	4.2	5	碗
60	9.2	3.8	5.1	碗
61	10	4.6	5.7	碗
62	9.4	4.4	5.5	碗
63	10.6			碗
64	10.8			碗
65	11.6			碗
66	10.8			碗
67	10.2	4.5	3.4	蓋
68	10.5	4.5	3.4	蓋
69	9.4	3.8	2.7	蓋
70	9.4	3.8	3	蓋
71	9.3	4.2	3.1	蓋
72	9.3	4.1	3.2	蓋
73	9.5	4.1	3	蓋
74	9.2	4.1	2.9	蓋
75	9.5	4.1	2.9	蓋
76	9.3	4	2.9	蓋
77	9.6	4.2	2.9	蓋
78	8.6	3.4	2.6	蓋
79	9.4	4	3	蓋
80	9.3	3.9	3	蓋
81	10.1	4	2.8	蓋
82	8.9	3.2	2.7	蓋
83	9.6	3.8	2.7	蓋
84	11.7	4.7	3.6	蓋
85	12.5			蓋
86	13	6.4	5.9	八角皿
87	4.5	1.4	1.3	紅猪口
88	4.6	2.8	3	紅猪口
89	7.7		1.7	灯明皿
90	7.3		1.5	灯明皿
91	6.9		1.2	灯明皿
92	7.1		1.3	灯明皿
93	7.3	3.2	1.5	灯明皿
94	7.2	2.7	1.5	灯明皿
95		6.4	7.5	大碗？
96	2.2	6.4	5.6	髪油壺
97		3.4		神酒徳利
98		2.8		神酒徳利
99		2.7		神酒徳利

	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備　考
100	8.2	3.3	6.1	碗
101	7.7	4.2	6.6	碗
102	7	3.2	6.1	碗
103	7.5	3.9	5.6	碗
104	7.1	4	5.7	碗
105	7.4	3.9	5.8	碗
106	6.6	3.2	5	碗
107	7.8	3.8	5	碗
108	7.4			碗
109	7.7	3.7	5.5	碗
110	8.2	3.7	5.5	碗
111	7.4	4	6	碗
112	6.8	3.4		碗
113	6.3	2.8	4.7	碗
114	5.8	2.9	3.7	碗
115	13.7	8.9	3.7	皿
116	14.1	8.8	3.9	皿
117	15.5	8.5	4.5	皿
118	15	8.7	4.5	皿
119	13.9	8.9	3.7	皿
120	12	5.3	3	皿
121	13.9	9.4	3.4	皿
122		3.8		皿
123	11.5	6.1	6.3	碗
124	11.2	6.1	6.3	碗
125	10.7	5.2	6.6	碗
126	10.9	5.4	6.5	碗
127	7	2.9	5.7	碗

	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	長さ（cm）	備　考
128		6.8		11	壺
129		5		7.7	壺
130		6.7			花生
131		3.4			?
132	8.1	8.8	7.9	13.7	碗
133	11.4	6.4	8.5	11.3	香炉
134	11	7	3.9	11.5	香炉
135	11.6	5.4	4.6		香炉
136	10.5	6.2	5		碗
137	10.5	2.5	1.2	7.4	猪口
138	10.5	4.6	5.7		猪口
139	4.7				碗
140	6	2.9	3.6		香炉
141	6.2	3.5	3.1		碗
142	6.6	2.7	2.7		皿
143		4			皿
144	8.7	4.5	1.9		皿
145	8.8	11	7	19.5	土瓶
146	9.1	1.7	5.1	1.8	蓋
147	7.8	13.8	8	20	土瓶
148	8.5			6.3	蓋
149	7.5	12.8	8	17	土瓶
150	7.4	5.2	1.9	3.8	蓋
151	6.2	9.6	6.5	16	土瓶
152	7.5	12.5	7	18.5	土瓶
153	9.5			20.5	土瓶
154	9.5	2.5	1.2	7.4	蓋
155	10.5	15	12		土瓶
156	8.9	14.5	8.8		土瓶
157	9.6	4.5	2.1	7.6	蓋

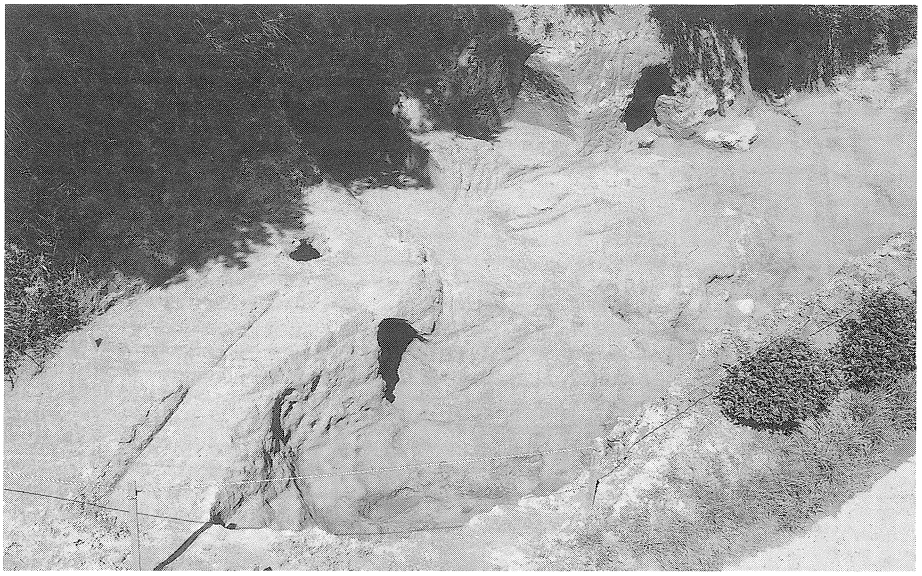
	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備　考
158			10.9	鉢
159	15.4	13.9	16.5	壺
160	23	13.2	17	鉢
161		9.1	13.3	鉢
162			15.5	鉢
163	20.7	10.7	7.6	鍋



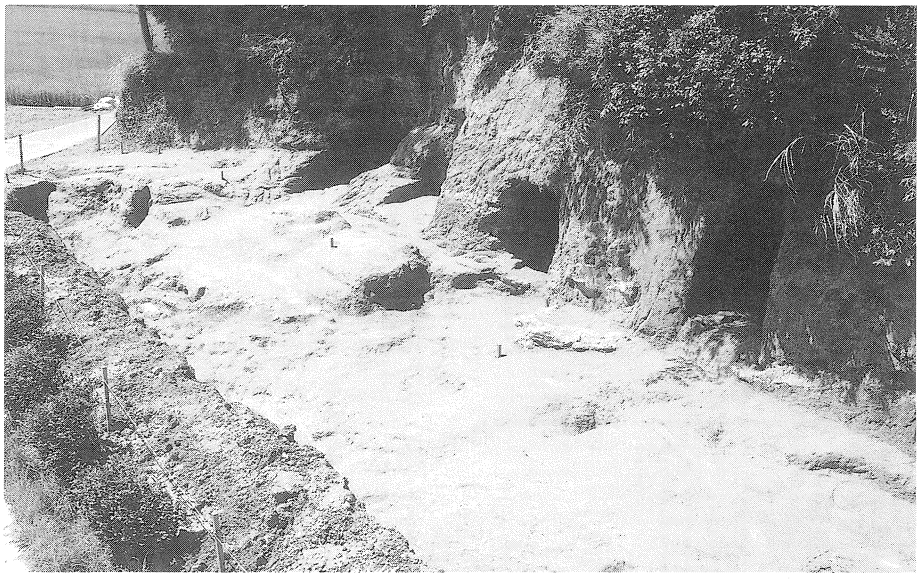
遺物計測部位

第１表　主要出土陶磁器計測表

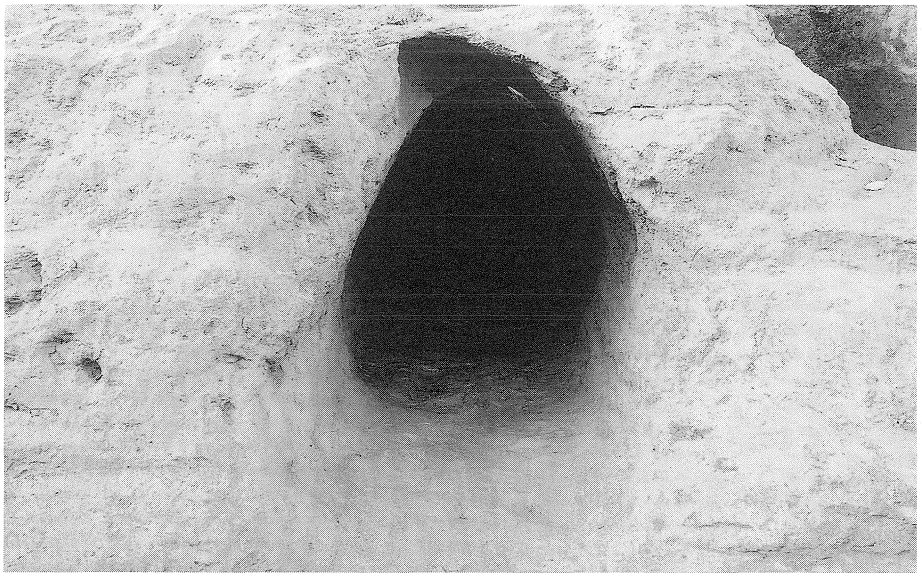
図版 I



1～5号墓全景
（西から）



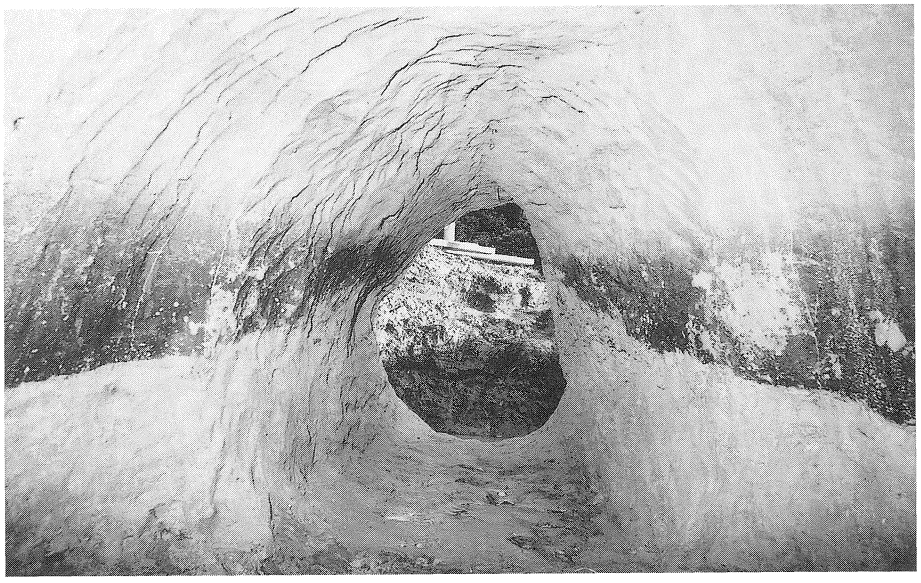
1～5号墓遠景
（東から）



1号墓羨道部
（南から）

図版 II

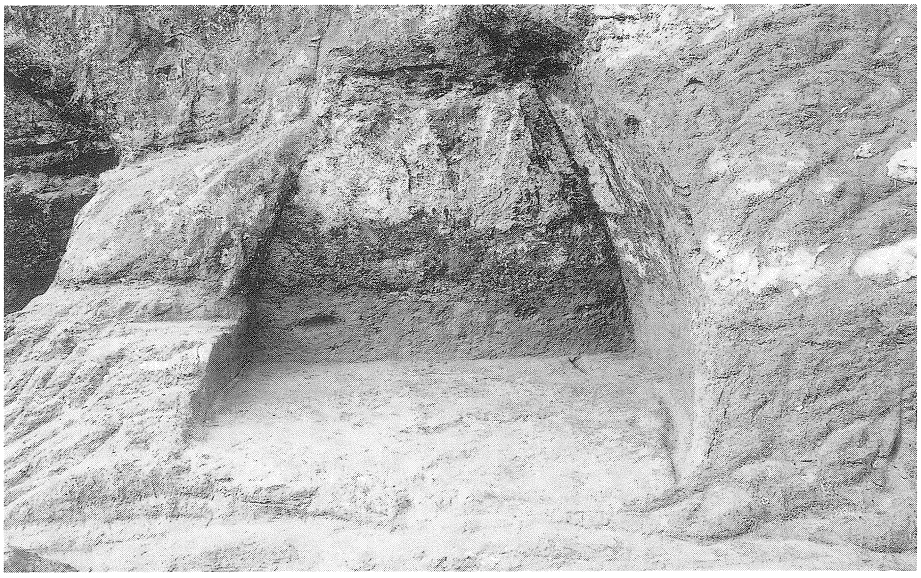
1号墓
礫床検出状況
（南から）



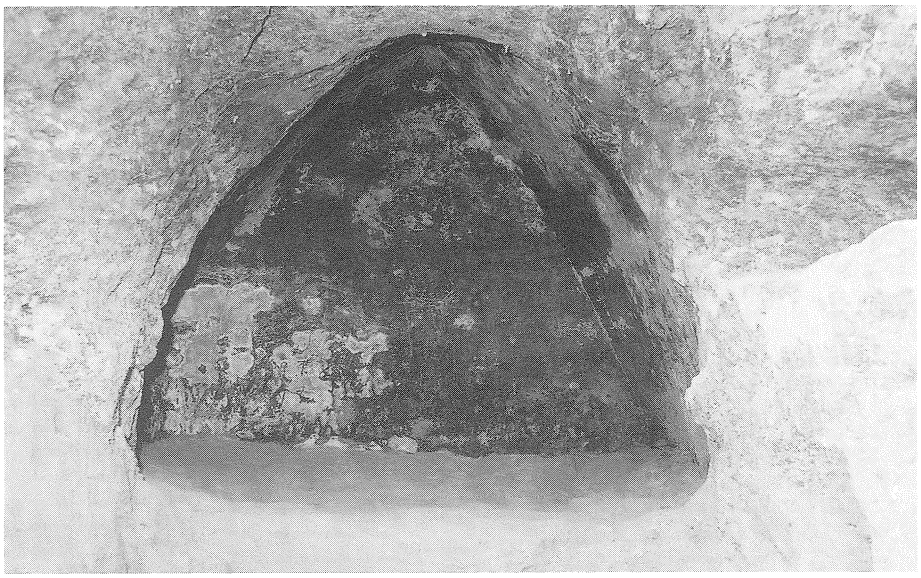
1号墓羨道部
（北から）

2号墓奥壁
（南から）

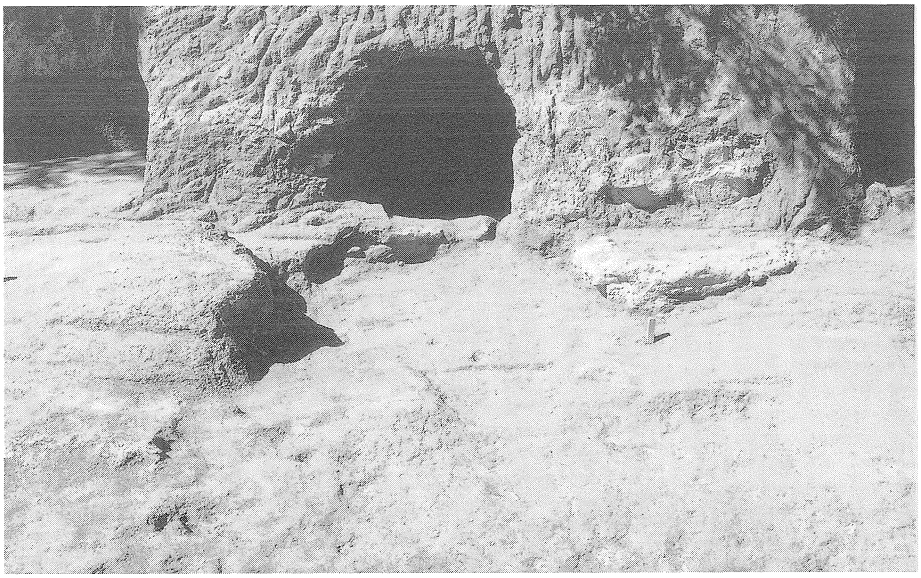
図版 Ⅲ



3号墓奥壁
（南から）



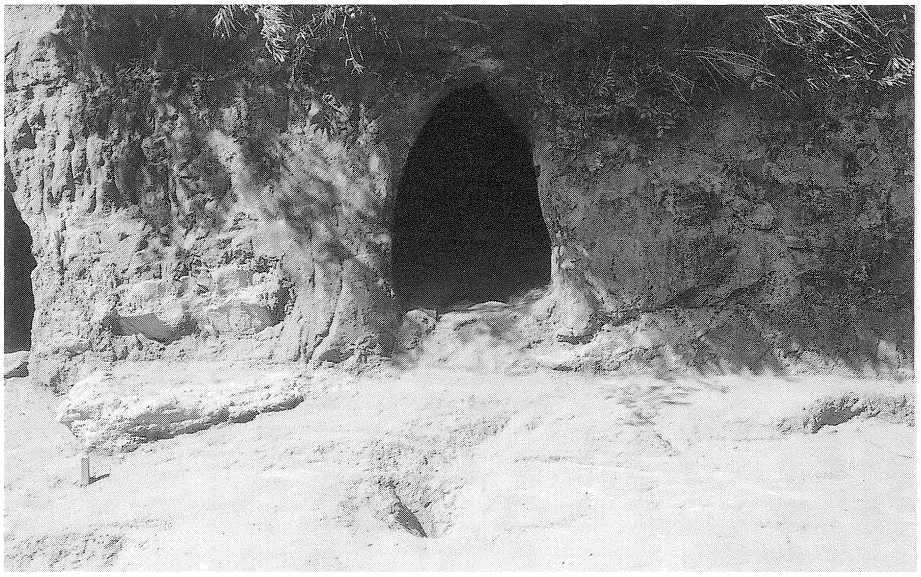
4号墓玄室部
（南から）



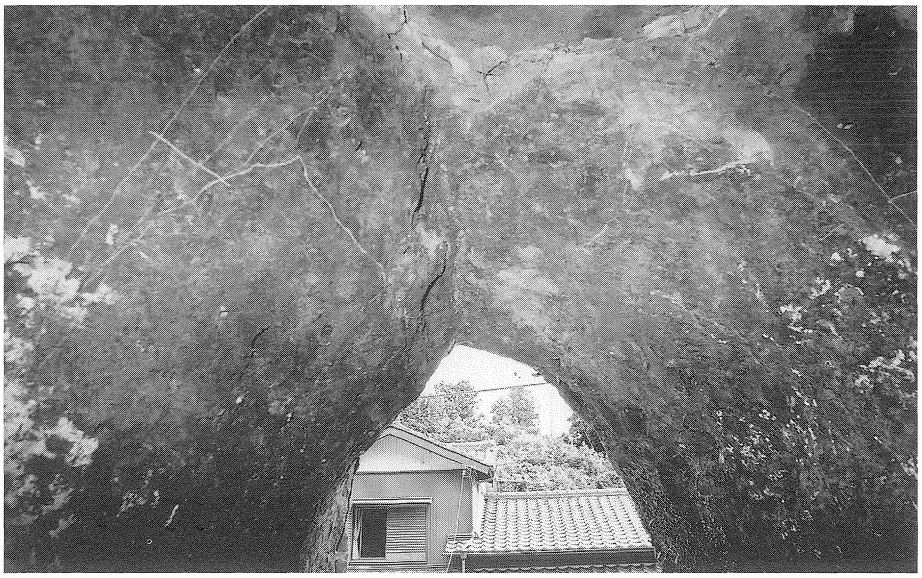
4号墓開口部
（南から）

図版 Ⅳ

4号墓玄室前壁
（北から）



5号墓羨道部
（北から）



5号墓玄室前壁
（南から）

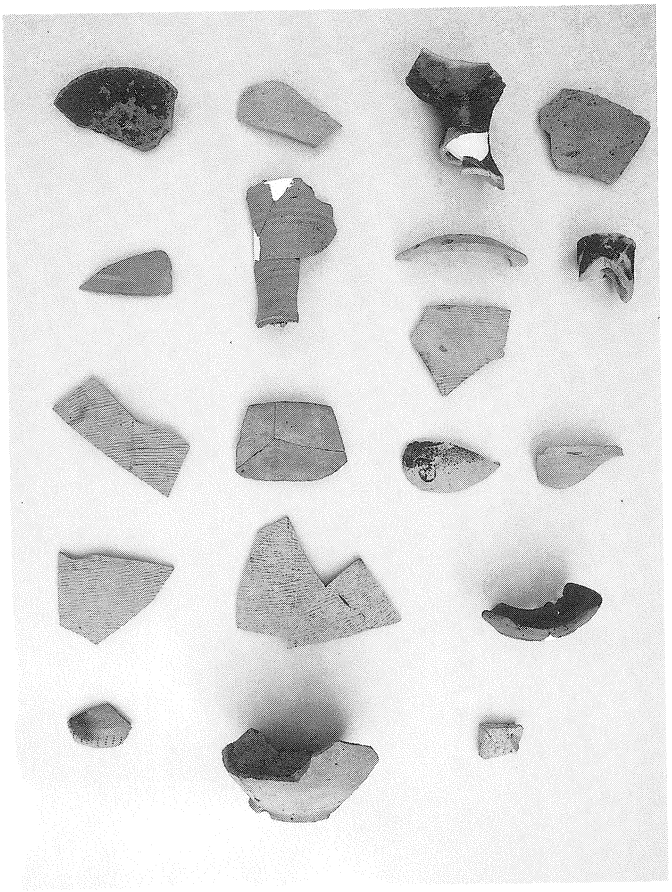
図版 V

５号墓玄室部
（南から）

ＳＸ０１　遠景
（東から）

ＳＸ０１
（南から）

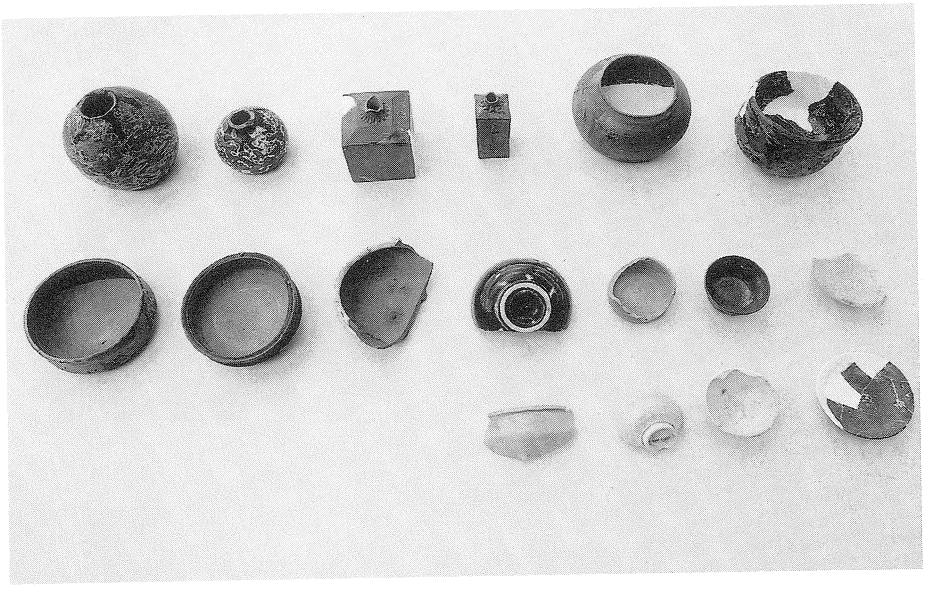
図版 Ⅵ



出土土器　1～19

出土土器　20～49

図版 Ⅷ



出土土器　128～144

出土土器　145～157

出土土器　158～163

報告書抄録

ふりがな	にしやだおうけつぼぐんびいぐんはっくつちょうさほうこくしょ
書名	西谷田横穴墓群Ｂ群発掘調査報告書
副書名	
編集者名	木村弘之・大熊茂広
編集機関	掛川市教育委員会
所在地	〒436-8650 静岡県掛川市長谷701番地の１　ＴＥＬ（0537）21-1158
発行年月日	西暦 2004年２月27日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西谷田横穴墓群Ｂ群	静岡県掛川市上西郷778－２	22213	K-295	34度47分10秒	138度0分40秒	20020801～20020913	240㎡	畑地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西谷田横穴墓群Ｂ群	横穴墓	古墳時代後期	横穴墓５基	須恵器 土師器	

※緯度・経度は世界測地系を使用

西谷田横穴墓群Ｂ群発掘調査報告書

編集発行　掛川市教育委員会
掛川市長谷701-1
TEL（0537）21-1158

印刷所　株式会社 彩光堂
掛川市宮脇248-1
TEL（0537）24-0013